

「ウチダザリガニ」モニタリング報告

調査日

6月日	A地点	なし	水温	22℃
	B地点	なし		21℃
	C地点	なし		21℃
	D地点	なし		21℃

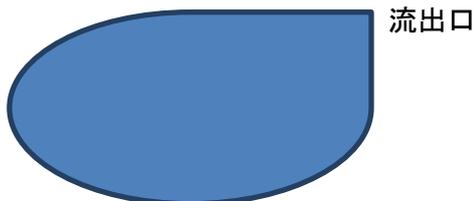
捕獲・調査日

6月22日 レイクウッド沼 水温17℃



平均体長 8.21cm
胸—頭 3.48cm

図1



A 木の陰 B 浅瀬

餌は前日に桧原湖で釣ったブルーギル・ブラックバスを輪切りにして入れる。

A 雌16 (欠損なし) 雄22 (欠損4) A” 雌16 (欠損1) 雄14 (欠損2)
B 雌14 (欠損3) 雄19 (欠損6)

合計93個体

* ブラックバスは身が残っていたがブルーギルは骨しか残っていなかった。

* 全体的に若干小ぶりに見えた。

番外 近隣にジュンサイ沼もあり、かつて釣堀であったところ (現在は営業してない)

水温19℃

震災目までは釣堀として営業をしており、魚やウチダザリガニが投入されていた。
震災以降は閉鎖状態であったので残存状態を調査。



雄 6 雌 2 (餌はブルーギル切り身を使用) 合計 6匹



レイクウッド沼にいる個体に比べると色が薄くきれい。雄2匹は体長12.1と11.1と大きな個体であった。もう少し捕獲できるのではないかと思ったがあまり身を隠す場所がないと思われる。水の流出口があるので移動し、繁殖地としては適していないと思われる。

8月22日 レイクウッド沼 「夏休み自由研究」として子供たちも参加
水温27℃



平均 体長 8.54cm

胸—頭 3.35cm

餌はスーパーで売っているぶりの頭と切り身を使用した。

雄 19 (欠損6) 雌 15 (欠損なし) 合計 34匹

子供たちに良く観察してもらうために、計測前に触ったり、雄雌の違いなどの説明を行った。始めは触れない子供もいたが、ビニールシートの上で楽しめました。

10月 3日 レイクウッド沼 協会賛助会員である(株)ニチレイ社員の方々に駆除活動に参加していただいた。

水温 18℃

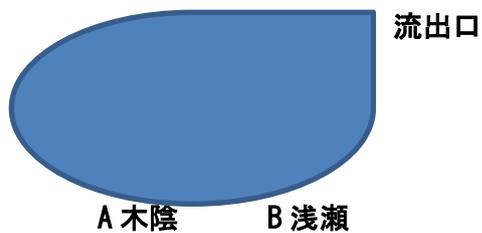


* 6月に駆除を実施したころに比べるとコカナダモが沼の3分の1程覆っている

餌はマグロの頭と切り身

平均 体長 8.24cm

胸—頭 3.60cm



A 雄 16 (欠損 3) 雌 6 (欠損なし)

B 雄 12 (欠損 2) 雌 4 (欠損なし)

合計 48匹

捕獲した雌 10匹のうち抱卵していた2匹の卵の数を数えようとしたが、卵が未熟で数えることが出来ず(つぶれてしまうのが多い)大変残念だった。



ウチダザリガニ捕獲数

	捕獲数 6月	7月	8月	9月	10月	合計
A地点	0					0
B地点	0					0
C地点	0					0
D地点	0					0
釣り堀跡	6					6
レイク沼	93		34		48	175
合計	99		34		48	181

考察

調査地曾原湖の4地点で昨年に引き続き同じやり方で同じ餌で6月に行った。捕獲数が少ない理由については現状ではわからない。調査地点のキャンプ場や貸ボートの方に伺っても昨年に続き、今年も特に見かけなくなったようだ。7月以降に調査が駆除活動など優先してしまい、出来なかったことは反省しています。

レイクウッドの沼にはまだ多数生息しているとみられる。曾原湖での減少を見ても、ザリガニの棲み分けができてきたのか、引き続き調査方法なども含めて考えたいと思う。駆除個体の平均値は下がってきているので、観光協会のザリガニプログラムと共に駆除できつつあるのかとも思う。

観光協会のウチダザリガニプログラムは今年もザリガニ沼で行われているが、以前のように釣れなくなってきているとのこと。今年度は当協会でのザリガニ沼での調査・体験はしていないため確かなことはわからない。昨年度6、7月に村内小学校の出前講座時に子供たちが、ザリガニ沼から曾原湖へ流れる小川で網を使い2cm足らずのウチダザリガニを多く取りました。それも駆除には役立っていると思うので、その時期の出前講座などは続けて行きたい。

9月17日ビジターセンター中心で行われた曲沢沼でのコカナダモ駆除活動に当協会は参加したが、その時コカナダモについてウチダザリガニは揚がらなかった。曲沢にはあまり多くのウチダザリガニは生息してないのではと考えるのはどうだろうか。ザリガニ沼からの水路がジュンサイ沼にも入るので次年度は手入れをしていないジュンサイ沼での調査が必要である。

459号線から小野川へ行く橋には大きい個体がいる。諸橋美術館の間にある食堂ではウチダザリガニを釣らせて茹でたものを食べさせている。経営者側の特定外来生物への説明もあり、駆除の一つの方法という見方もできる。

調査・駆除活動を続けるには、時間と人員確保が必要です。今後は会員以外でも協力者を募って活動していかなければ続けて行くことは困難であると思う。

調査者 : 立花千秋 真野真理子